

令和6年度 第2回瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和6年11月22日（金）15時～17時

開催場所：瀬戸内市民図書館 つどいの部屋

出席委員：大東会長（ノートルダム清心女子大学 人間生活学部）

三浦副会長（瀬戸内市副市長）

平本委員【代理：田井中氏】（両備ホールディングス（株））

河田委員【代理：峯下氏】（牛窓タクシー）

尾崎委員（（有）ツルヤタクシー）

坂本委員【代理：重田氏】（（有）ネイチャーワールド自動車）

永田委員（瀬戸内市観光協会）

中尾委員（瀬戸内市老人クラブ連合会）

角房委員（生活交通網をつくる会）

栃折委員【代理：黒住氏】（西日本旅客鉄道(株)中国統括本部岡山支社）

三枝委員【代理：小原氏】（一般社団法人瀬戸内市緑の村公社）

吉田委員（中国運輸局岡山運輸支局）

藤原委員【代理：中山氏】（瀬戸内警察署）

本多委員（岡山県備前県民局建設部管理課第一班）

出射委員（備前市市長公室交通政策課）

國廣委員（岡山県県民生活部県民生活交通課）

出席委員 16名

委任状提出委員 2名

事務局：総合政策部 平井（部長）

企画振興課 服部（課長）、鈴木（主事）、高原（主事）

1. 開会

2. 会長あいさつ

- ・令和6年4月に導入した「バスロケーションシステム」は非常に便利で利用者が増加傾向にある。
- ・中型バスのラッピング事業も進行中である。
- ・大規模なバス路線を持つ岡山市が検討している路線の再編の中には、瀬戸内市の路線も含まれている。その部分についても皆様からご意見をいただきたい。

3. 報告事項

報告事項1 「市営バス事業について」を事務局から説明

(1) 利用者数の推移

- ①「10人乗りワゴン車路線」の年度別利用者数の推移（令和3年度～令和6年度）
- ②「虫明・長島愛生園線」の月別利用者数（令和4年4月～令和6年10月）
- ③「牛窓中央線」の月別利用者数（令和4年10月～令和6年10月）

(2) バスロケーションシステム「バス予報」の利用状況について

- (3) 市営バス車両（中型バス）のラッピングについて
- (4) 牛窓支所駐輪場工事について

【質疑・意見等】

- ・現在、邑久駅前整備に係る工事を行っている。中型バス路線の乗り場とワゴン車路線の乗り場が分かりづらく、利用者が駅前で右往左往しているのを見かける。案内表示などを工夫してはどうか。
→邑久駅前の整備は今年度完了予定の事業となっている。また、駅前整備は産業建設部が担当となっており、連携をしていく必要があると考えている。バスを待つ場所の表示が分かりにくいということについては現状を確認し、改善できるよう取り組んでいく。
- ・駐輪場を新設することに関して、駐輪場の北側に車を駐車できるのか。そうであるならば、自転車と車の動きが複雑になり危険だと考える。
また、牛窓中学校は生徒数が年々減ってきて今年から部活が無くなったため、部活をしたい学生は牛窓中学校ではなく部活のある邑久中学校に通うようになっている。その学生たちが牛窓支所前の駐輪場を使用しているため、以前より利用が増えており、今後も利用が増えると見込まれる。そのあたりも考えて整備してほしい。
→牛窓支所前の駐輪場は鹿忍地区から来る学生が多く利用しているものと思われる。学生の利用が増加することで、牛窓支所に来られた市民の方の駐輪が難しくなっている背景があり検討を始めた。駐車場全体が傾斜しているため、南北に向く駐輪場を設置する必要があり、この場所に落ち着いた。安全面は注意しながら表示などで気をつけたい。

・駐輪場設置予定の駐車場は西側の入口から入って東側の出口から出るルートになっている。出入り口が狭い上に、駐車場自体が狭く、角ごとに車両があると車を回しにくく危険を感じることも多い。この場所に駐輪場が建つと自転車側の危険もあるが、車が出るとき西側から来た車は駐輪場の柱などで死角になると思う。

→矢印に沿って迷うことなく進める検討する。

・何台の自転車を駐輪できるようになるのか。

→12台駐輪できるように設計している。

・邑久東地域から邑久中心部へ向かう虫明・長島愛生園線の便数が少ないという声は届いているか。牛窓中央線は便数が多く便利であるという声をよく聞く。すぐには難しいかと思うが増便できないか。

→土日祝の運行は3往復で、利用者から便数が少ないという意見をいただいている。具体的な要望等を聞いていき、増便や時刻の変更などを検討していく。加えて、停留所の利用状況を分析も行いたい。

・土日祝に虫明・長島愛生園線を利用される目的は把握しているか。

→観光や長島への研修・見学を目的とした団体利用が増えていると把握している。

・中型バスの利用者増加について、要因を把握していれば教えてほしい。

→虫明・長島愛生園線沿線付近にある専門学校の生徒が通学に市営バスを利用しており、今年度は入学者数が多くなったと聞いている。こういった日常利用者数の増加が影響していると考えている。基本的には平日の通学による利用者増が要因であると考えている。

・土日祝の便数を増やすには運転手確保など様々な課題があるかと思うが、どのように考えているか。

→便数を増やす際には、運転手の確保、金銭面、労働時間など多くの制約がある。運行委託事業者とも相談が必要となる。現状を踏まえて検討していく。

・市営バスラッピングのデザインは誰が考案したのか。

→委託事業者と市で協議を行い作成した。

報告事項2 「岡山市のバス路線再編について」を事務局から説明

【質疑・意見等】

・両備バス「牛窓（神崎・南回り）西大寺線」の車両をハイエースなどのワゴン車に小型化した場合、万が一、超過定員が発生した際はどのような対応になるのか。

→どのサイズの車両を導入するかは岡山市との協議も必要になるが、時間帯に応じて車両サ

イズを変更することも想定される。定員超過が想定される路線の場合、定員に余裕のある車両サイズのものにしておくのが無難と考えている。

・両備バス「牛窓（神崎・南回り）西大寺線」の車両を小型化する話はいつ頃具体的になるのか。

→今後、岡山市と瀬戸内市で「利便増進実施計画」を策定していく。その中で車両の小型化も検討することとなる。利用状況を引き続き分析しながら関係者で協議をしたい。次回の公共交通会議では具体的な提案としてお示しすることになる。

・事業者として思ったことを会議の場で質問をしているが、答えをもらったことが一度もない。公共交通会議の趣旨が分からなくなっている。

→公共交通会議は瀬戸内市の公共交通に関係することを広く協議、報告する場である。案件によっては決定事項の報告で、意見を言っても変えられないものも含まれている。また、いただいたご意見に対する結果の報告ができていない部分があることはこちらの説明不足と考えているが、市営バスの運行やタクシー事業者との各種調整などにはいくらか反映できていると考えている。

・バスの利用者が減少すれば事業者としては儲からないが、車両サイズを小型化すれば事業者は儲かるのか。また、営利を目的とする事業者に車両の小型化について納得させることができるのか。

→岡山市内は9社で競争しているエリアがあり、その路線を整理し、それぞれが効率よく運行できる形に整備しようとしている。その中で車両の小型化も案の1つとして挙がってきている。小型化をすることの是非についてはご意見をいただきたい。

・牛窓（神崎・南回り）西大寺線の沿線地域である鹿忍地域はバスがなければ生活ができない。運行事業者が変更するくらいであれば問題ないが、バス路線がなくなるようなことがあってはならない。

→バスの利用者が減ると事業者の利益が無くなり、便数減や廃線につながるのが一般的な流れ。今回バス路線の再編を議題に挙げたが、すぐに路線がなくなるといった話ではない。今のまま同じ車両、同じ便数で走っていくと、どこかで運行を継続することが難しくなる時が来る。それを防ぐために、現在検討を行っている。

・市民の足を確保することは当然でそれが市営バスの役割である。観光は観光、学校は学校、タクシーはタクシーなど、役割に応じて会議を開催してほしい。この会議は市民の足を守るための市営バスについて議論する場と考えている。もう少し有意義な場にしてほしい。

→議論する内容を絞ったほうが話が前に進むという考えもあるが、公共交通会議の場は瀬戸内市営バスについて協議するだけでなく市内の公共交通について協議を行い、様々な立場

の委員に集まっていただきご意見をいただく場として成り立っている。今後も事業者だけでなく幅広い意見をいただくことができる有意義な場としていきたい。

5. その他

- ・ 次回の公共交通会議は令和7年2月頃を予定。

6. 閉会

- ・ 市営バスなどについて、地元にお住まいの方ならではのご意見を多く寄せていただいた。市としても市民の生活の足を守ること、安全・安心で利便性が高く持続可能な公共交通をどのように構築していくか、引き続き考えていきたい。
- ・ 委員が出した意見に対する市からの回答が無いというお声もいただいたが、市としては真摯に考えて取り組んでいるがそれが伝わっていないことは反省点である。引き続きご意見をお寄せいただきたい。

以上